

全国月間火山概況（平成 27 年 1 月）

御嶽山では、火山活動が低下してきていることから、19 日に噴火警戒レベル 3（入山規制）を切り替え、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石の飛散と火砕流に対する警戒が必要な範囲を火口から概ね 3 km の範囲に縮小しました。

桜島では、爆発的噴火が発生するなど活発な噴火活動が継続しました。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

口永良部島では噴火は発生しませんでした。火山ガスは多い状態で経過し、引き続き火山活動は高まった状態で経過しています。新岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒してください。

西之島では、噴火及び溶岩の流出が継続し新たに形成された陸地の拡大が確認されています。西之島の中心から概ね 6 km 以内の範囲では噴火に警戒してください。

十勝岳では、2014 年 7 月頃から、山体浅部の膨張を示すと考えられる地殻変動の変化率が大きくなっています。62-2 火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

吾妻山では、14 日に火山性地震が 193 回発生し、28 日には火山性微動が発生しました。大穴火口から概ね 500m の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

草津白根山では、湯釜付近の膨張を示す地殻変動が認められるほか、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられています。湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

阿蘇山では、中岳第一火口で、連続的な噴火が発生しています。中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山（新燃岳）では、北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられます。火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）では、火山性地震が時々発生しています。えびの高原の硫黄山から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

諏訪之瀬島では、爆発的噴火が 4 回発生するなど、活発な火山活動が継続しました。火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

蔵王山では、19 日に火山性微動が発生しました。登山等で火口に近づく際には十分注意してください。

2 月 9 日現在の各火山の火山現象に関する警報及び予報の発表状況は表 1 のとおりです。

表 1 2 月 9 日現在の火山現象に関する警報及び予報の発表状況

特別警報・警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	御嶽山、桜島、口永良部島
	入山危険	西之島*
	レベル 2（火口周辺規制）	十勝岳、吾妻山、草津白根山、三宅島、阿蘇山、霧島山（新燃岳）、諏訪之瀬島
噴火警報（周辺海域）	火口周辺危険	硫黄山*、霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）
噴火予報	周辺海域警戒	福徳岡ノ場*
	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、浅間山、新潟焼山、焼岳、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄山
	平常	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、アトサヌブリ、雄阿寒岳、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、乗鞍岳、白山、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田崩山、折捉焼山、折捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

※印を付した火山は火山現象に関する海上警報も発表中。



図 1 火山現象に関する警報を発表中の火山

【各火山の活動状況及び警報・予報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、警報・予報事項に変更はありません。

十勝岳[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

2006年から62-2火口浅部の膨張を示すとみられる地殻変動が継続していますが、2014年7月頃から、その変化率が大きくなっており、膨張がさらに浅い領域にまで及んでいる可能性があります。山体浅部の熱水活動の活発化を示すと考えられる常時微動の振幅レベルは、11月頃から増大がみられています。このことから、引き続きごく小規模な水蒸気噴火の発生する可能性が高まっていると考えられます。また、より深部へのマグマ供給によると考えられる地殻変動は認められていません。

62-2火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。62-2火口から概ね1kmの外側であっても、風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

蔵王山[噴火予報(平常)]

14日に陸上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、御釜周辺に噴気及び地熱域はみられませんでした。また、丸山沢噴気地熱地帯の噴気と地熱域の状況にも、前回の観測(2014年11月20日)と比較して大きな変化はありませんでした。

19日に火山性微動が1回発生しました。火山性微動発生前後の地震活動に変化はみられず、傾斜計でも変化はみられませんでした。火山性地震は6回と、少ない状況で経過しました。

坊平観測点(山頂の南西約5km)の傾斜計では、今期間、南東上がりの変化が続いています。

GNSS¹⁾による地殻変動と噴気活動に特段の変化はみられません。

2014年8月以降、火山活動の高まりがみられます。過去の活動期には、突発的な噴気孔の生成や、火山ガスの噴出等の現象があったことから、登山等で火口に近づく際には十分注意してください。

吾妻山[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

28日08時15分頃に継続時間が約2分50秒の火山性微動が発生しました。浄土平(大穴火口の東南

東約 1 km) の傾斜計では、火山性微動に伴い、一時的に西側（火口方向）が下がる変動がみられ、その後もとの状態に戻りました。

火山性地震は 2014 年 12 月 7 日頃から 1 月 17 日にかけて、増減を繰り返しながら多い状態で推移し、14 日には一日あたり 193 回とさらに増加しました。また、振幅のやや大きな地震も発生するなど、地震活動は活発な状態になっています。震源はこれまでと同様に大穴火口直下付近の浅い所と推定されます。

浄土平（大穴火口の東南東約 1 km) の傾斜計では、2014 年 4 月以降、緩やかな西側上がり傾向で経過していますが、1 月 26 日以降はその傾向が強まっています。

浄土平の火口カメラ（東北地方整備局設置）及び上野寺の遠望カメラでは、大穴火口とその付近の噴気の状況に異常は認められません。

GNSS¹⁾ 連続観測では、9 月頃から一切経山南山腹観測点（大穴火口の北約 500m) が関係する基線で緩やかな変化がみられており、大穴火口付近の浅いところの膨張を示唆している可能性が考えられます。

大穴火口から概ね 500m の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

草津白根山[火口周辺警報(噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

2014 年 3 月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が、消長を繰り返しながら多い状態が続いていましたが、8 月 20 日以降やや少ない状態で経過しています。地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められています。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられています。また、全磁力観測による 5 月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、7 月以降停滞しています。

湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

御嶽山[火口周辺警報(噴火警戒レベル 3、入山規制)]

← 1 月 19 日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベル 3（入山規制）を切替え

御嶽山では、火山活動が引き続き低下してきており、2014 年 9 月 27 日と同程度ないし上回る規模の噴火が発生する可能性は低くなっています。一方、火口列からの噴煙活動や地震活動が続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。このことから、19 日 17 時 00 分に噴火警戒レベル 3（入山規制）を切り替え、大きな噴石の飛散と火砕流に対する警戒が必要な範囲を山頂火口から概ね 3 km に縮小しました。

遠望カメラ等による観測では、白色の噴煙が火口縁上 100~300m の高さで経過しています。

山麓で実施した現地観測では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり約 300 トンでやや少ない状態が続いています。

火山性地震は少ない状態で経過していますが、2014 年 8 月以前の状況には戻っていません。

剣ヶ峰山頂の南東約 3 km に設置している傾斜計では、今期間特段の変化は認められません。また、GNSS¹⁾ 連続観測では火山活動によるとみられる特段の変化は認められていませんが、国土地理院の GNSS データの解析によると、長期的には 9 月上旬頃から御嶽山を挟む基線でごくわずかな伸びがみられ、また、9 月下旬頃からごくわずかな縮みの傾向がみられ、12 月までに 9 月上旬頃の基線長に戻っています。

御嶽山では、火口から 3 km 程度の範囲で大きな噴石の飛散や火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

三宅島[火口周辺警報(噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年 2 月以降はやや少量となっています。

7 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 300 トン（前回 2014 年 12 月 15 日：400 トン）と少ない状態で経過しました。

三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

GNSS¹⁾ 連続観測によると、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013

年頃から停滞しています。島の長距離の基線で 2006 年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続しています。

今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に警戒してください。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに警戒してください。

西之島[火口周辺警報(入山危険)及び火山現象に関する海上警報]

海上保安庁等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されています。

21 日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、第 7 火口で噴火が継続し、灰色の噴煙が高さ約 500m まで上がり西に流れていました。また、溶岩流は島の東側に流出し扇状に拡がり、火砕丘東側の麓にも溶岩が露出している所が確認され、青白色の火山性ガスを放出していました。

変色水は、西之島の東岸から北岸及び西岸の旧西之島付近から南側の海岸線に沿って分布しているのが確認されました。

西之島では、今後も噴火が続くおそれがありますので、西之島の中心から概ね 6 km 以内の範囲では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。

硫黄島[火口周辺警報(火口周辺危険)及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震はやや多い状態で経過しています。火山性微動は時々発生しましたが、その他の観測データに異常は認められませんでした。

海上自衛隊の協力により、19 日から 20 日にかけて現地調査を実施しました。ミリオンダラーホール（旧噴火口）では、前回（2014 年 8 月）の観測に比べて、噴出孔内及びその周辺の地形に顕著な変化は認められず、噴気は観測されませんでした。

GNSS¹⁾ 連続観測によると、地殻変動は 2014 年 2 月下旬頃から隆起の傾向、9 月頃から停滞の傾向、12 月上旬頃から再び隆起の傾向がみられ、2015 年 1 月中旬頃から隆起速度が上がっています。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。このことから火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生している地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒してください。

福徳岡ノ場[噴火警報(周辺海域)及び火山現象に関する海上警報]

27 日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、福徳岡ノ場付近の海面で火山活動によるとみられる変色水等は認められていません。

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの上空からの観測によると、福徳岡ノ場では長期にわたり火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010 年 2 月 3 日には小規模な海底噴火が発生しています。今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に警戒してください。

阿蘇山[火口周辺警報(噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

中岳第一火口では、活発な噴火活動が続いています。連続的な噴火が継続し、13 日には灰色の噴煙が最高で火口縁上 1,300m まで上がりました。

13 日夜間に実施した現地調査では、ストロンボリ式噴火を観測し、赤熱した噴石が断続的に火口縁上最大で 300m の高さまで上がるのを確認しました。

火山性微動の振幅は、大きい状態で継続しました。

7 日、9 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 2,500~2,600 トン（12 月：2,000~3,100 トン）と多い状態で経過しました。

中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。火口周辺では強風時に小さな噴石が 1 km を超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石にも注意してください。

霧島山（新燃岳）[火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

新燃岳火口直下を震源とする地震は少ない状態で経過しました。

GNSS¹⁾ 観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011年12月以降鈍化・停滞していましたが、2013年12月頃から伸びの傾向がみられます。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。降雨時には、泥流や土石流に注意してください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）[火口周辺警報（火口周辺危険）]

硫黄山や韓国岳北側に噴気は認められませんでした。

えびの高原（硫黄山）周辺では、火山性地震が時々発生しています。

えびの高原の硫黄山から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降る恐れがあるため注意してください。

桜島[火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

昭和火口では、爆発的噴火が61回発生するなど、活発な噴火活動が継続しました。

4日01時06分と30日06時00分の爆発的噴火では、大きな噴石が3合目（昭和火口より1,300~1,800m）まで達しました。噴煙の高さの最高は、23日20時36分の爆発的噴火による火口縁上4,000mでした。南岳山頂火口では、噴火は発生しませんでした。

16日と30日に実施した現地調査では、15日23時02分、30日06時00分の爆発的噴火に伴って落下したと推定される最大約2cmの小さな噴石（火山れき）を桜島島内の鹿児島市有村町付近（昭和火口より南側約3km付近）と鹿児島市黒神町付近（昭和火口から東側約3.5km）でそれぞれ確認しました。

二酸化硫黄の放出量は1日あたり7日に3,600トン、15日に5,000トン、16日に2,300トンを観測し、15日は一時的に非常に多い状態でした。桜島で5,000トン以上の二酸化硫黄が観測されたのは、2012年10月29日（5,700トン）以来です。

大隅河川国道事務所の有村観測坑道及び京都大学防災研究所のハルタ山観測総合坑道に設置している傾斜計及び伸縮計では、1日頃から山体の膨張と考えられる変化が継続しています。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

口永良部島[火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

口永良部島では噴火は発生しませんでした。火山性地震が時々発生し、火山ガスも多い状況で経過しており、引き続き、火山活動は高まった状態で経過しています。

13日から16日に実施した現地調査では、引き続き新岳火口の西側割れ目付近および南西斜面で噴気を確認しました。赤外熱映像装置による観測では、新岳火口縁の西側、西側割れ目付近および南西斜面の噴気地帯で熱異常域を引き続き確認しました。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所及び屋久島町が19日、20日、22日、23日、24日、27日、28日、30日に、福岡管区気象台が16日に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の1日あたりの放出量は、1,100~3,100トン（2014年12月：1000~1900トン）と、多い状態で経過しました。

火山性地震は24日に一時的に増加しました。このうち23時14分には、島内の深さ5kmを震源とするマグニチュード2.2（暫定値）の地震が発生し、屋久島町口永良部島池田で震度1を観測しました。

新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

諏訪之瀬島[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

御岳火口では、爆発的噴火が4回発生したほか、噴火も時々発生しました。噴火に伴う灰白色の噴煙が最高で、火口縁上1,000mまで上がりました。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落(御岳の南南西約4km)では降灰は確認されませんでした。

25日に実施した御岳火口の現地調査では、前回(2012年11月8日)と比較して、御岳火口内の南東側に火孔が開孔していました。文化火口内の形状等に特段の変化はありませんでした。赤外熱映像装置による観測では、熱異常域に特段の変化は認められませんでした。

諏訪之瀬島では、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

(火山の順は活火山総覧(第4版)による)

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

資料1 全国の火山現象に関する特別警報・警報・予報の発表状況のまとめ（平成27年2月9日現在）

(1) 主な活火山

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
北海道地方	アトサスプリ	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	雌阿寒岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2008年9月29日火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年10月17日噴火予報（平常） 2008年11月17日火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年12月16日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年4月10日噴火予報（レベル1、平常）
	大雪山	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	十勝岳	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2008年12月16日噴火予報（レベル1、平常） 2014年12月16日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	樽前山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	倶多楽	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	有珠山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2008年6月9日噴火予報（レベル1、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	恵山	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
東北地方	岩木山	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	秋田焼山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2013年7月25日噴火予報（レベル1、平常）
	岩手山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年10月27日噴火予報（レベル1、平常）
	鳥海山	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	栗駒山	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	蔵王山	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	吾妻山	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2014年12月12日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	安達太良山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
磐梯山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常）	
関東・中部地方	那須岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	日光白根山	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	草津白根山	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2009年4月10日噴火予報（レベル1、平常）切替 2014年6月3日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	浅間山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2008年8月8日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年2月1日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年2月3日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2009年4月7日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2010年4月15日噴火予報（レベル1、平常）
	新潟焼山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2011年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	焼岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2011年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	乗鞍岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	御嶽山	火口周辺警報（レベル3、入山規制）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2008年3月31日噴火予報（レベル1、平常） 2014年9月27日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2014年9月28日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2015年1月19日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替
	白山	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	富士山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
関東・中部地方	箱根山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	伊豆東部火山群	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2011年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）
伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	新島	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	神津島	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	三宅島	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年3月31日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	八丈島	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	青ヶ島	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	西之島	火口周辺警報（入山危険）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2013年11月20日火口周辺警報（火口周辺危険） 2014年6月3日火口周辺警報（入山危険） 2014年6月11日火口周辺警報（入山危険）切替
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月1日火口周辺警報（火口周辺危険）
	福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域警戒）	2007年12月1日噴火警報（周辺海域警戒）
	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日噴火予報（平常）
九州地方・南西諸島	九重山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	阿蘇山	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2011年5月16日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2011年6月20日噴火予報（レベル1、平常） 2013年9月25日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2013年10月11日噴火予報（レベル1、平常） 2013年12月27日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2014年3月12日噴火予報（レベル1、平常） 2014年8月30日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	雲仙岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	霧島山（新燃岳）	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2008年8月22日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年10月29日噴火予報（レベル1、平常） 2010年3月30日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2010年4月16日噴火予報（レベル1、平常） 2010年5月6日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2011年1月26日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2011年1月31日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2011年2月1日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2011年3月22日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2012年6月26日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2013年10月22日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2014年10月24日火口周辺警報（火口周辺危険）
	桜島	火口周辺警報（レベル3、入山規制）	2007年12月1日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年2月3日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年2月20日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年4月8日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年7月14日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年7月28日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年8月28日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年2月2日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年2月19日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年3月2日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年3月10日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2009年4月24日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年7月19日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2010年9月30日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2010年10月13日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2012年3月12日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2012年3月21日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
九州地方・南西諸島	薩摩硫黄島	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2012年11月29日噴火予報（レベル1、平常） 2013年6月4日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2013年7月10日噴火予報（レベル1、平常）
	口永良部島	火口周辺警報（レベル3、入山規制）	2007年12月1日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年1月25日噴火予報（レベル1、平常） 2008年9月4日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年10月27日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年3月18日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年8月4日噴火予報（レベル1、平常） 2009年9月27日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年10月30日噴火予報（レベル1、平常） 2011年12月15日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2012年1月20日噴火予報（レベル1、平常） 2014年8月3日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2014年8月7日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替
	諏訪之瀬島	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）

注) 警報及び予報の発表履歴欄には、平成19年12月1日の火山現象に関する警報・予報及び噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示す。この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示している。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルである。

(2) その他の活火山

以下の活火山（*印を除く）では平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。また、*印の活火山では、活火山として選定された平成23年6月7日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、いずれも火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火山名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山*、摩周、雄阿寒岳*、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方	高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山
伊豆・小笠原諸島	利島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山